

「日々の理科」(第 4083 号) 2025, 10, 13

「新燃岳の火山灰採取(最終回)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



霧島温泉駅には、2011 年の新燃岳噴火時の写真が掲示されていました。通常の火山ガスと湯気だけの「噴気」とはちがひ、固体碎屑物の「噴煙」です。



少し道に迷いましたが、霧島温泉駅から車で5分ぐ
らいの場所に、市営の廃棄物集積場がありました。



霧島市役所から連絡が入っていたようで「あ、お茶
の水大学の方ですね?」と出迎えて下さいました。



市役所の方からは「少量なら・・・」という話でし
たが、見れば「集灰袋」という専用の袋に詰められた
火山灰が大量にありました。「どうせ廃棄ですので、
どうぞ全部持って行ってください」とのこと。私は教
材会社ではないので、少し(3~4kg)だけ頂きました。



高速で熊本に移動中、八代付近で猛烈な豪雨に遭い、
2時間ほど動けなくなりました。「この世の終わり」
というのは、こういう豪雨なのでしょう。私が遭遇し
た雨では最も強い降り方で、恐怖さえ感じました。



無事に熊本に着きました。この翌日には、熊本の先
生方への研修会で、さっそく火山灰を使った鉱物の観
察ができ、火山灰も配布できました。